



淫魔の体が快楽を求めても
勇者の心は屈しない！

そして勇者は 淫魔になって 性を貪る

だか
魔の顔だ
どんな表情を
している？

原作：志岐転機 作画：れいとうみかん
製作協力：あむっいおかし製作所

魔王城への
出発式典当日

式典を行う拠点に
魔物達の襲撃があり
勇者ウォルス達は討伐にあたった

舞い踊れ雷

そして勇者は
淫魔になって
性を貪る

こうやってウォルスと
一緒に戦うのは
久しぶりだよな

ティアナ様を
護衛した時
以来だよな

あの数を一掃!?
相変わらず強いな

モルブ
他に魔物は?

今の魔物が
最後ですね
無事討伐完了です

討伐報告等は僕がしますので
ソルドガさんはウォルス様と
式典会場へお戻りください

了解
ウォルス
戻ろうぜ

うん

ああそういえば
ティアナ様が手紙で
出発式典の欠席を
残念がっていたぞ

ソルドガさんには
私の分もウォルス
さんのお見送り
させてあげますね
お願います

原作：志岐転機 作画：れいとうみかん
製作協力：あむあいおかし製作所

僕宛の手紙にも
書いてあったな

よく
がんばり
ましたね

聖女さま
ありがとー

ティアナ様は聖女と
して王都の結界維持や
皆の治療で忙しいからね

激励も書かれて
いたんだけど
未だに子供扱い
されてしまって…

ティアナ様にとって
俺達は幼い頃から
面倒を見てきた弟みたい
なものだからなあ

ソルドガは
異性として
見られたいのにな

ははは、

うるせっ

旅立つ前にまた
ソルドガと話す機会が
持てて良かったよ

それは
俺もだ

次は凱旋した時に
旅の話聞かせてくれ
武運を祈っているぜ

うん
行ってくる

魔王メルゼ様で
ございます

ではこの国で
一番愚かなのは
誰だ？

舞い踊れ雷！

『鏡』よ『鏡』

この国で一番
強いのは誰だ？

勇者ウォルスで
ございます

ぐああああ！

かっ！
愚か愚か！

何度やっても余の魔法
『反鏡』で跳ね返される
ことが分からねのか？

これが人族
最強だと？

弱いな
よわよわ人族だ



——全てを
奪え鏡牢

くっ——

咲き乱れる
雷！

かっ！
無駄だ無駄！

なっ魔法が
出ない！？

だったら
この聖剣で！

無駄だ

『鏡牢』は
余の支配空間だ
余の許可なく
魔法は使えんよ

っう!?

聖剣に
拒まれた!?

貴様に聖剣は
握れんよ

どういう
意味だ!

貴様はもう
勇者でも

ましてや
人族でも
ないからだ

な...!?

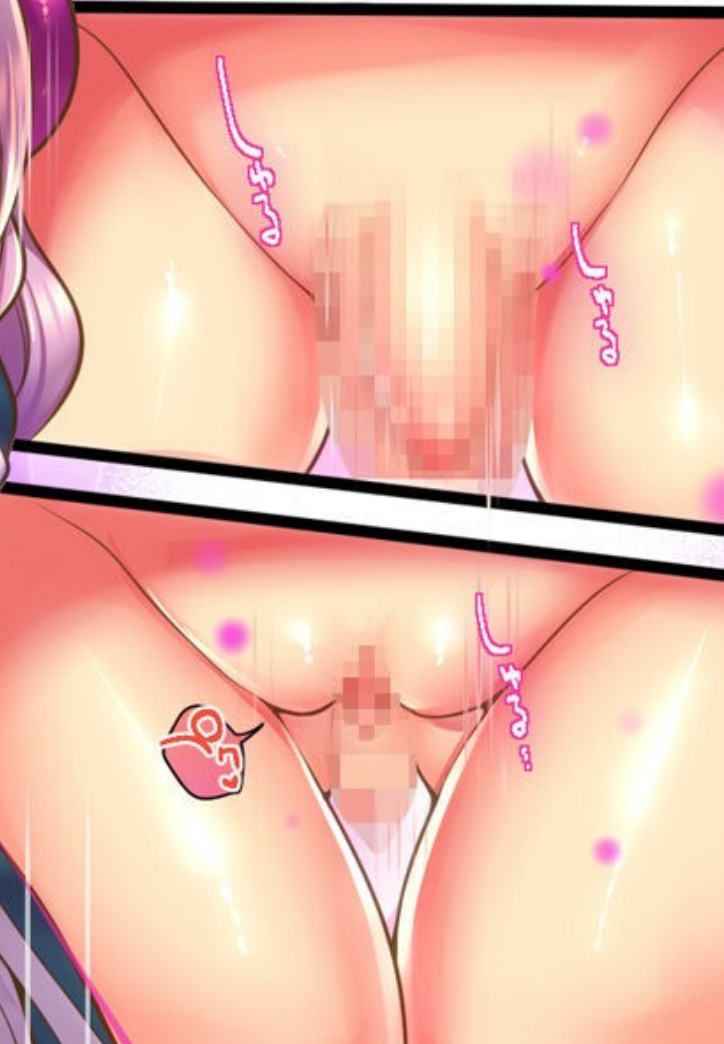


先程言った
であろう

また魔族を
増やせばいいと



!?



その役目を
貴様に与える

新たに
魔族を生み出す
祖となれ勇者

いや

淫魔
—
サキュバスよ



これが……僕？

こここんな幻覚に
惑わされると
思うな！

かかっ
信じられぬか

ならば実感
させてやろう

貴様が倒した魔族種は
淫魔だけではないが
その魔族種が一番
面白いであろう？

まずはその服で
押し潰されている
乳房を晒してみよ

体が
勝手に!?



どうして
魔王の言葉に
逆らえない
んだ!?

その手が
乳房を揉む触感が
伝わるか?







カカッ…
どうだ

見ての通り
貴様の陰茎は
消え失せた

これから
その陰核を
愛でてやれ

くっ!

なん
え!?

なんだこれ!?
割れ目から奥に
熱が広がって…

んっあ!?

頭がほわほわする…
手が止まらない…!



こんな姿
これじゃあ
本当に……！

だめだ！
もう……！



くっ！

その姿は幻覚の類
ではないと！
それが今の
貴様の体だと！

こんな辱めを
受けているのに
まだ体が疼いて
いるなんて……



かかっ！

どうだ？
実感したか？

それにしても
勇者が魔王の前で
自慰を披露とは
実に愉快よ

おっと既に
貴様は勇者では
なかったな

何を言う！
僕は勇者だ！

はて？

余の
知っている
勇者は…

僕!?

こんな姿だと
思ったが？

かっ貴様の姿を
変えた余が己の姿を
変えたくらいで
何をそこまで驚く？

余にとって姿を
変えるなど造作もない

先程までの姿も

今日の服と一緒に

気分で決めたものだ

そうたやすく

本来の姿は見せんよ

それよりもまだ
この姿を『僕』と
言うのか

これはより一層
己が何者かを
分からせるしか
ないようだな

いっしょ

わあ！
おちんちんだ！

オロ

ッ

いや何を
言っているんだ
僕は！？

何もおかしい
ことはない

淫魔である
貴様はこれを
欲しているのだ

ややめ



やめ……っ

くっくくく

ひひひ



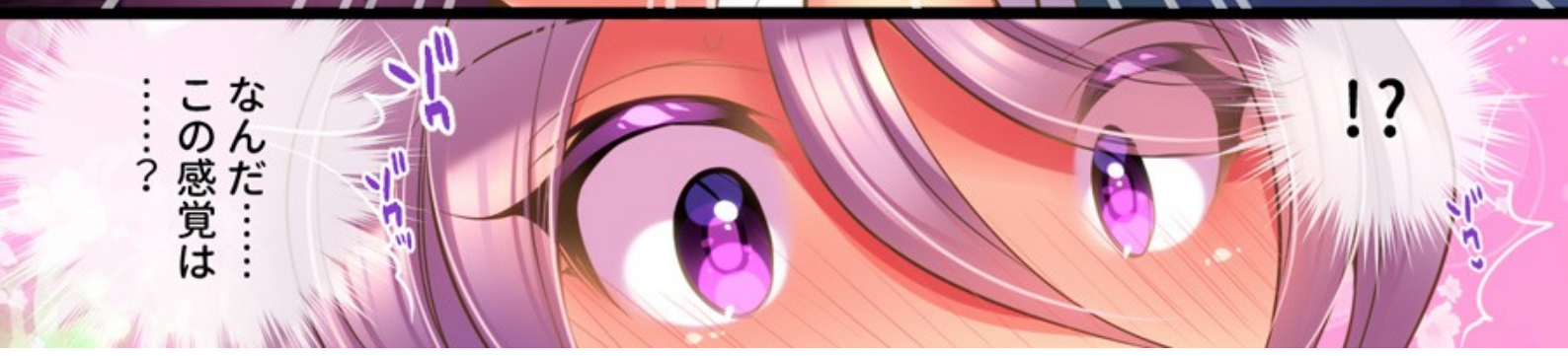
この味を
知れ



いっしょっ

んんんんん

ぬぬぬ



!?

なんだ……
この感覚は
……？

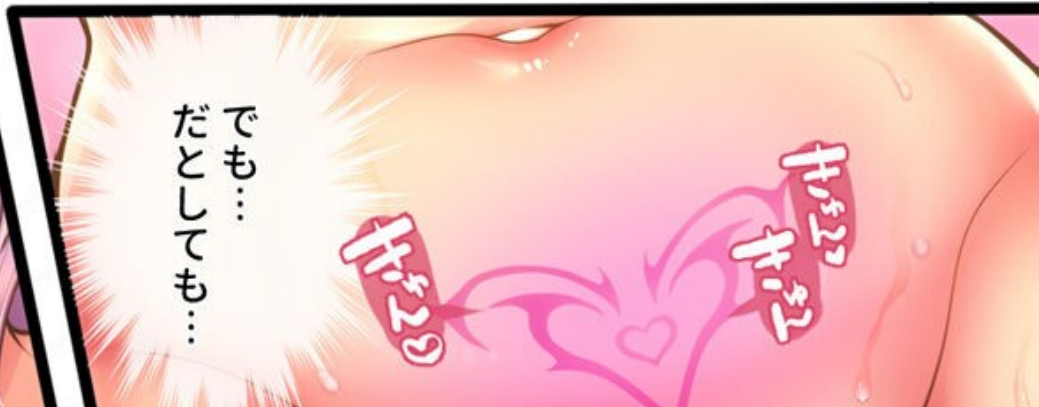
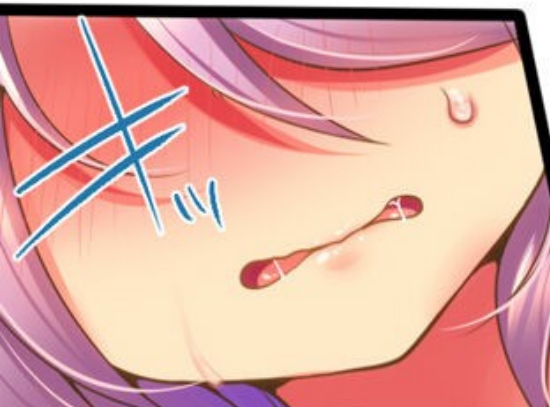


この甘ったるい声は
僕の口から
漏れているのか？

魔王が動く度
体中に多幸感が
広がって…



体が…魔王を
求めて動く…



でも…
だとしても…

僕の心までは
屈しない…
屈しないんだ…!!

だって僕は
勇し—

無駄だ
淫魔

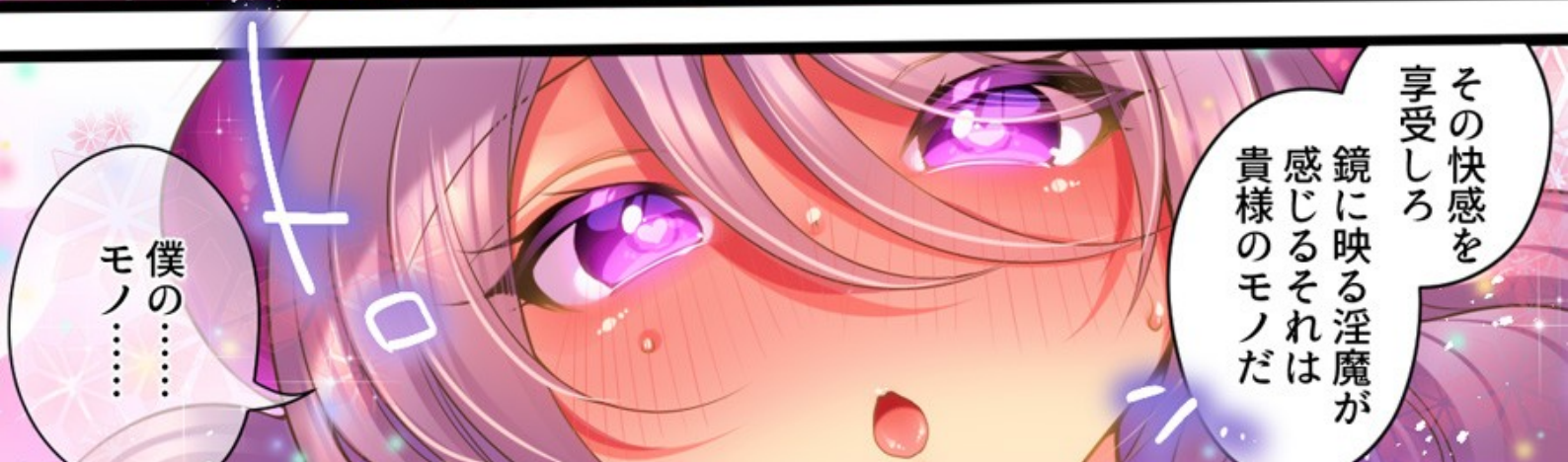
その体を感じる
快楽を受け入れよ



見ろ
今抱かれている
淫魔の顔だ
どんな表情を
している？

とても…

気持ち
よさそうだ…

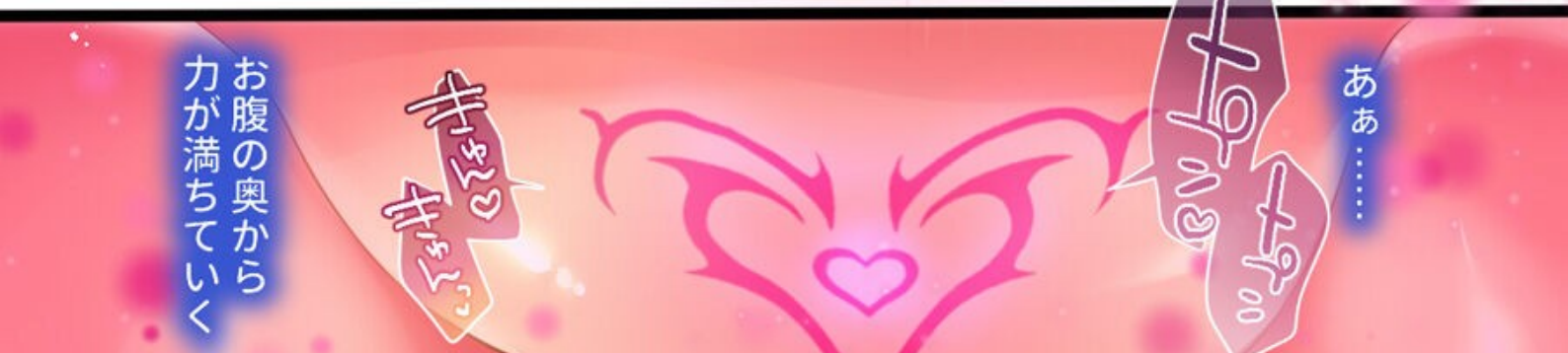


その快感を
享受しろ

鏡に映る淫魔が
感じるそれは
貴様のモノだ

僕の……
モノ……





お腹の奥から
力が満ちていく

あぁ……



かかっよろしい
己が何者なのか
しっかりと
分かったようだな

前の服はもう
似合わんだろう
その服は
誕生祝いだ

感謝いたします
魔王様!

淫魔は精液を
糧とする魔族だ

その為の力そして
淫魔を増やす力を
貴様に与えよう

敵襲！ 敵襲！
拠点内にサキュバスが
侵入したぞ！

キンキン
カン

いーやあ

いーやあ

いーやあ

いーやあ

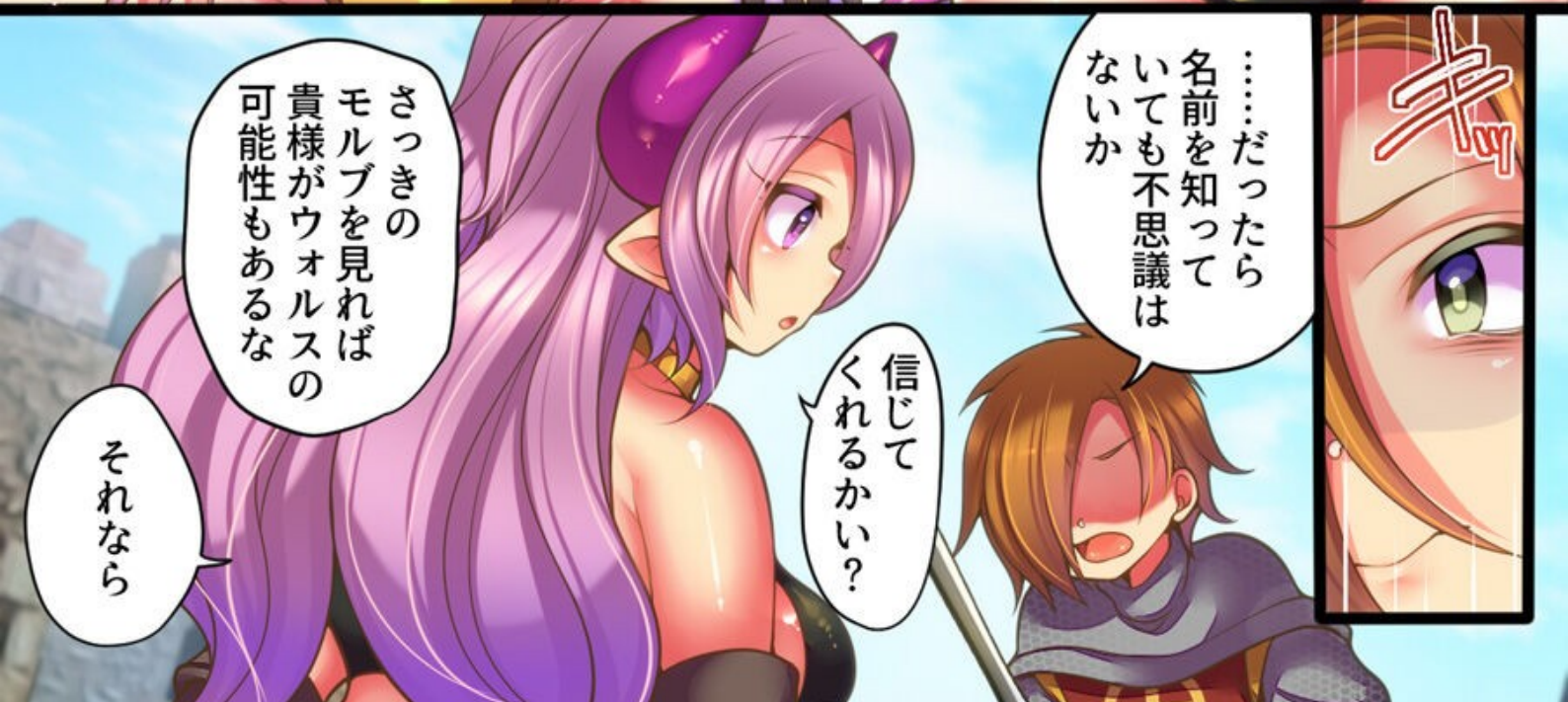
なんでこんなに
サキュバスが
いるんだ！？

ぐわあああ！

あれは
モルブ！？

いーやあ

いーやあ



だとしても
剣を収めるはずが
ないだろ

この拠点を
襲った以上
貴様は敵だ

例えそれが…
ウォルスでもな

……立派な
兵士だね
ソルドガは

仲良く
しようよ

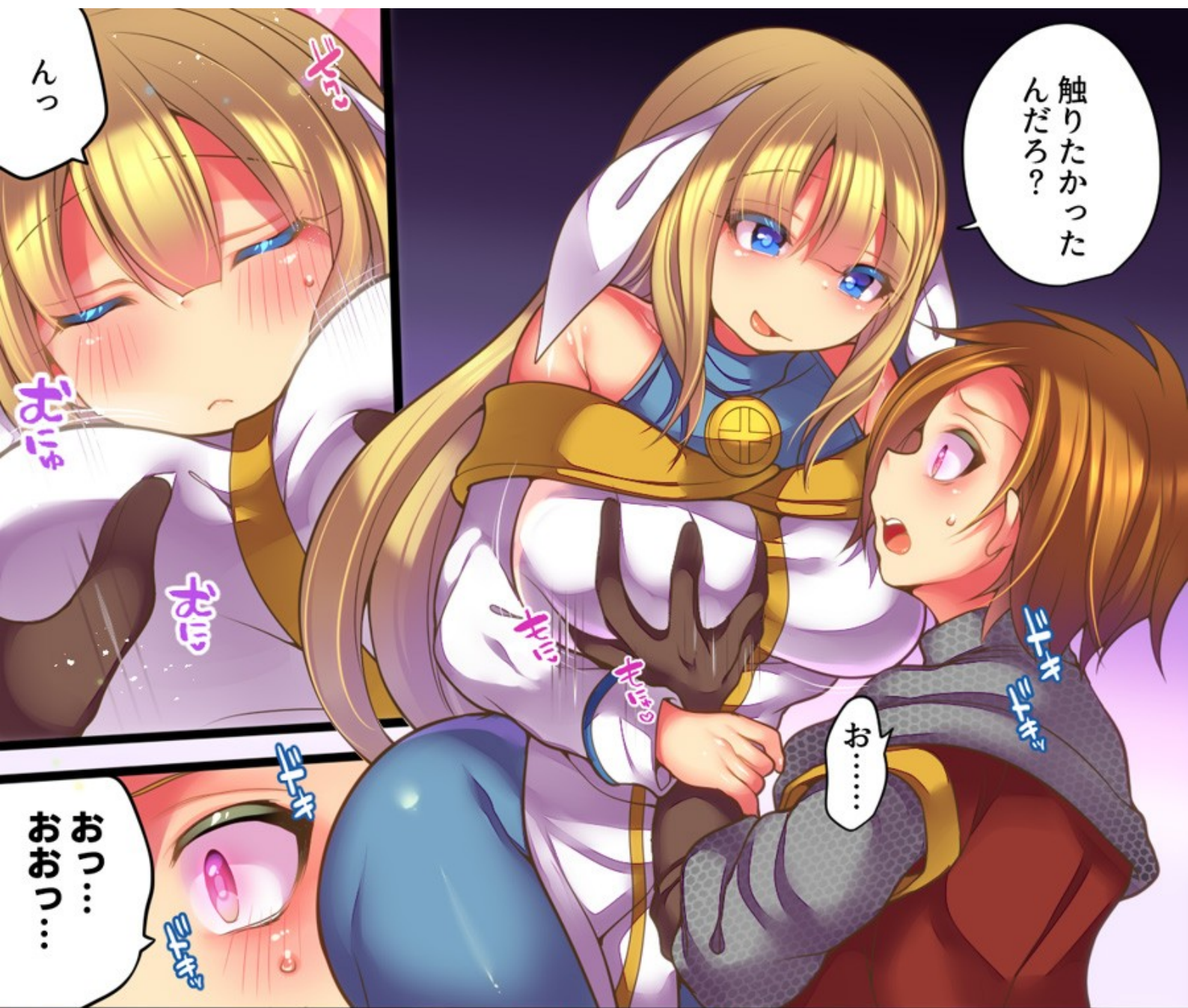
でも距離を
とられるのは
悲しいな

これは
一体!?

じいっす…

剣や防具も
どこに!?





私のおっぱいで
もっと気持ちよく
なってください♡

ティアナ様の
おっぱいで…

いや違う…
この御方は—



フム…

素直になって
いいんですよ

フム…

ティアナ様が
俺のを挟んで……

フム…
フム…
フム…

!?

フム…
フム…
フム…

こういうことを
してほしかったん
ですよ♡

気持ちいい
ですか？

何故だ？

変身を見たのに
この御方が
本物だと
思ってしまう…

気持ち
いいみたい
ですね♡

じゃあもつと
頑張っちゃいます♡

たーん
たーん
たーん

め
め
め

ティアナ様
がお口で!!

舌が!?

ダメだ!
耐えられない!

おぼろげ

たーん
たーん
たーん

たーん
たーん
たーん

ふふっ
た〜くさん
出ましたね♡

……
貴様！

どうしたんだ
ソルドガ？
今更取り繕う
必要はないぞ？



僕はソルドガの前で
ずっと無防備だったのに
攻撃もせずにはされるが
まだまだったじゃないか

もう分かって
いるんだろ？

ぐっ！？

ここには僕と
ソルドガしか
いないんだ





あっ

アッ
アッ
アッ



欲望を……

それでは
私の中にお迎え
しますね♡



素直に欲望を
解放しなよ



俺が
ティアナ様と
繋がって……

どうですか？

私の中は気持ち
いいですか？

ぬぎ
ぬぎ
ぬぎ

ぬぎ



どうぞ
お好きに♡



ティアナ様
俺は……!!



きゃっ



締め付けが強い……
でも……ぬるぬるして……
気持ちいい……

ソルドガの
おちんちんが
僕の中で
暴れてる……♡
ソルドガの想いが
全身に満ちてく……♡

あっ♡ あっ♡
来る♡ いく……
イッちゃう♡

だったら
その対価を
いただくよ

——知らない
記憶が雪崩
込んでくる!!

ぐわあああ!

っう…やめろ!
俺に淫魔の知識を
寄越すな…!!

体が!?

駄目だ!
変わらないでくれ!

私は……
違う! 俺は…
私は……!!





ソルドガちゃん
以外も全員
淫魔化が完了です♡

報告
ありがとうございます
モルブ

二人にも
誕生祝いだよ♡

わあ

もっと精液を
味わう為に♡

それじゃあ
別の場所に
向かうか

そしてもっと
淫魔を増やす
為にね♡

END





